



大阪府議会議員

なかつか ひろし 中司宏

このまちの未来を守るために――

大阪府議会議員として再び議席をいただいて半年余り、生まれ育った枚方の未来を守り大阪の明日を拓くため、精力的な活動を行っています。

大阪府政においては、知事を支える立場で質問や政策立案等に携わる一方、枚方市の施策を実現するため府とのパイプ役につとめ、地域においては校区コミュニティをはじめ地域自治に関わる多くの方々の思いを受けとめ、身近な問題の解決に奔走しています。

この間に、枚方市の変革を訴えた伏見隆市長が誕生。大阪ダブル選挙では、府と大阪市の一体的な発展で「副首都」をめざす松井一郎知事、吉村洋文市長がそろって当選を果たし、伏見市長とガッチリとスクラムを組んで政治を前へと進めていく体制が整いました。

人口減少と少子高齢化が急速に進む中、成長戦略を進め、このまちの未来を守るためにこれからも頑張ります。

中司宏 なかつか ひろし プロフィール

▶昭和31年3月

枚方市に生まれる
うみのほし幼稚園、枚方市立殿山第二小学校、枚方市立第三中学校、大阪府立寝屋川高等学校、早稲田大学第一文学部を卒業

▶昭和54年4月

産経新聞社に入社
京都支局を経て東京本社政治部記者
中曽根首相番記者、参議院担当、自民党中派・竹下派担当などを歴任

▶昭和62年4月

大阪府議会議員(自民党公認)初当選、以来連続2期
文教委員長、自民党枚方支部長などを歴任

▶平成7年4月

枚方市長に初当選(39歳)3期12年間枚方市長として市政の発展につとめる
この間、大阪府市長会会長(2期)、全国青年市長会会長、環境自治体サミット共同代表、道路整備促進期成同盟会全国協議会会長などを歴任

▶平成21年12月

柏原市まちづくり戦略会議議長として事業仕分けなどを担当(平成22年11月まで)

▶平成27年4月

大阪府議会議員当選(3期目)
健康福祉常任委員会委員
大阪維新の会府議団政調会健康福祉部会長
大阪府環境審議会委員
大阪府議会日露友好親善議員連盟会長
福祉ボランティア団体「こうけんネットワーク」役員

枚方の未来を守るために 市政の動き平成27年8月～

(枚方市議会の詳細は枚方市議会HPをご覧ください)

市長選で伏見隆新市長が誕生 8月30日



市駅前街頭演説

他市への人口流出が増加する一方で美術館問題など課題が山積する中、8月の枚方市長選で市政の変革を訴えた伏見隆氏が初当選しました。

枚方市は一昨年4月に中核市となりましたが、府から移管された保健所の運営をはじめ中核市の特性が十分に活かされていません。京阪奈の中心に位置する40万都市に相応しい市駅前整備も急がれます。

変革への市民の願いを受けた伏見市長が、早急にまちづくりのビジョンを打ち出すことを期待するとともに、その実現に向けた取り組みをしっかりと支えていきます。



当選が決まり万歳

所信表明～新しい枚方の創造へ 10月20日



所信を述べる伏見市長

今後4年間でめざす新しい枚方の創造に向けた所信表明は、「人が集まるまちづくり」、「高齢者が健康でいきいきと暮らせるまちづくり」、「協働によるまちづくり」、「将来世代に大きな負担を残さない徹底した市政改革」の4つが柱。

「人が集まる」ために推進すべき重点施策として、①枚方市駅周辺再整備など都市基盤整備、②安心して楽しく子育てできる環境、③子どもたちの可能性を伸ばす学校教育-を掲げています。

これに対する市議会各会派の代表質問が10月27、28の両日に行われました。



代表質問に立つ木村議員

府への要望(市町村との意見交換会) 11月27日



意見交換会で挨拶

平成28年度の予算編成に向けて枚方市から府に要望書を提出したことを受け、府の担当者と市幹部との意見交換会が大阪維新の会府議団の主催で行われ、岡沢健二府議会議員とともに参加しました。

枚方市からの主な要望点は、▽急傾斜地の安全対策▽防犯カメラ設置▽保健所運営▽交差点改良・歩道整備▽交通バリアフリー・信号設置▽穂谷川整備▽京阪連続立体交差▽新名神・淀川新大橋整備▽加配教員の配置▽支援教育の拡充-などです。府に対し、十分な対応をするよう求めていきます。



市長と市幹部が出席

地域活動



校区の防災訓練

議員活動を再開し、各校区の防災訓練をはじめ文化、スポーツ、福祉、教育など地域ごとに実施される様々な行事に参加し、府政・市政に対する声をできるだけお聞きするよう心がけています。

一方、コミュニティ協議会の役員との意見交換を重ね、道路や河川の整備をはじめ、交通、防犯、浸水対策、高齢者問題などたくさんの相談や要望をいただき、解決のために奔走する毎日です。同時に、まちづくりで重要な役割を担う校区コミュニティの在り方を考え、より良い協働の仕組みづくりに取り組んでいきます。



夏祭りのひとコマ

後援会の動き



熱気に包まれた「語る会」



「政経フォーラム」で挨拶

中司宏後援会主催の「中司宏と語る会」を9月19日に開催。挨拶の中で、ご支援をいただいた多くの方々への感謝と再スタートの決意を語るとともに、ゲストの伏見市長に対し「枚方の未来を託し、選ばれるまち、魅力のあるまちへと枚方の未来図を塗り替えて

ほしい」と期待を述べました。また、12月4日に開催した「北大阪政経懇話会」の「第7回政経フォーラム」では、講師にお迎えした江口克彦参議院議員(元PHP総合研究所社長)から、「松下幸之助氏の政治論」をテーマに講演をいただきました。

「副首都・大阪」の確立に向けてセカンドステージ始動

大阪が「副首都」として機能し発展を遂げていくためには、思い切った自治制度改革の設計図を描くとともに、二重行政を解消するなど、府と市が一体的に強力な成長戦略を進めていかなければなりません。大阪ダブル選挙の結果を踏まえ、府民・市民の皆さんの期待に応えて、大阪の発展に向けたセカンドステージの舞台で大阪を前へと進めていきます。私も府議会議員の一人として、しっかりと役割を果たしていきます。

平成27年8月～主な動き

大阪府施策についての提言(知事への提言) 8月4日

来年度の事業計画・予算編成に向けて、大阪維新の会議員団政調会でまとめた提言書を松井知事に提出しました。主な項目は▽総合型リゾート施設IR誘致▽水道一元化、大学・病院の統合など府市二重行政解消▽国際博覧会の誘致▽森林保全と都市緑化▽教育改革の推進▽発達障がい児者への支援—など

府議会9月定例会前半会期 9月29日～10月27日

10月2日～9日に各派代表質問及び一般質問が、14日～23日に各常任委員会の審議が行われ、議案では特区で「民泊」を活用する「外国人滞在施設経営事業に関する条例」などが可決されました。(健康福祉常任委員会での中司宏の質問を次ページに掲載)
大阪維新の会議員団の主な質問項目は①二重行政の解消に向けて・大学、病院の統合②福祉・社会保障の充実・子どもの貧困対策③教育改革の推進・府立高校再編整備④世界とつながる成長戦略・国家戦略特区の推進⑤防災、防犯、環境・土砂災害対策⑥人口減少社会に向けた行政システム・国民健康保険制度改革—など

府議会9月定例会後半会期 12月14日～12月22日

12月14日の本会議で松井知事が2期目の所信表明演説。今後4年間でめざす大阪の姿として、「目標を副首都・大阪の確立という具体的なミッションとして掲げ、その土台を築く」と強調するとともに、副首都化へ向けて「副首都推進本部」を設置し、中長期ビジョンを策定する方針を示しました。
これに対する各派代表質問が12月17日に行われ、維新の会議員団からは▽副首都大阪の確立・副首都推進本部▽大学統合▽国際博覧会の誘致などについて知事の考えを伺いました。



力強く所信表明

府議会常任委員会管外視察 8月31日～9月1日

健康福祉常任委員会が認知症対策とがんの先端医療について視察しました。視察内容は▽熊本・荒尾市地域包括センター<認知症初期集中支援チームによる認知症の早期診断・対応に向けた支援体制の構築>▽熊本県庁<認知症疾患医療センター事業の実施状況と今後の展開>▽佐賀・九州国際重粒子線がん医療センター<施設の概要と運営体制、医療実績>



視察先で熱心に聞き入る



取り組み状況を質問

大阪ダブル選挙 11月22日

任期満了に伴う大阪府知事及び大阪市長のダブル選挙で、大阪維新の会公認の松井一郎候補、吉村洋文候補がそろって当選を果たしました。
W選挙マニフェスト～大阪維新セカンドステージへ～の主な項目は▽副首都大阪の確立▽大阪の経済成長戦略▽二重行政の根絶▽統治機構改革▽市長村への権限移譲▽福祉医療の充実—など



ダブル当選で記者会見

松井府政で進んだ改革と政策

職員人件費	[H19] 9,142億円 ▶ [H26] 8,340億円	9%削減
天下り団体数	[H19] 46団体 ▶ [H27] 21団体	25団体削減
議員定数	[H23] 109人 ▶ [H27] 88人	21議席削減
議員報酬(月額)	93万円 ▶ 65万円	3割カット
来阪外国人旅行者数	[H23] 約160万人 ▶ [H26] 約375万人	約215万人増加
有効求人倍率	[H23] 0.68倍 ▶ [H27] 1.19倍	約1.8倍アップ
雇用創出	[H27] 5年間で累計15万人	年平均3万人

10月16日 健康福祉常任委員会 中司宏 質問要旨

75歳以上の人口が5人に1人となる2025年問題を見据えて高齢者施策に対する制度が大きく変わる中で、広域自治体として超高齢社会を支えていくために果たすべき大阪府の役割も大きい。そこで、府内各市町村、関係機関、事業者、そして府民・市民の皆さんと一緒に、府がコーディネート役となって「協働」の仕組みをどのように構築していくのか。そうした視点から府の考えについて質問しました。(詳しくは府議会のHPをご覧ください。)



地域包括ケアシステムの構築について

Q. 医師、看護師をはじめ様々な専門職が連携して在宅医療や訪問介護を提供する仕組みづくりは急務であり、関係機関の協働によるコンソーシアムの構築も必要である。市町村との連携など取り組みの現状と今後の展望は？在宅医療を支えるには地域の病院やかかりつけ医への支援体制が不可欠だが対応は？

A. 市町村に対し広域・専門的な立場から積極的に指導助言するとともに、地域医療介護総合確保基金を活用して在宅医療の充実や介護人材の確保を行う。関係機関など相互の連携体制を構築するため府が調整役を担う。ICTを活用し病院とかかりつけ医で患者情報の共有化を図るなど、切れ目のない在宅ケアの整備に努める。

健康寿命と歯の健康の関係について

Q. 大阪では健康寿命が低迷しているが、丈夫な歯が残っているほど自立度が高いとの報告がある。一方で歯周病と生活習慣病などの健康との関連が重視され口腔ケアが重視されているが、取り組みは？

A. 歯科口腔保健計画に基づき実態調査を行い、市町村と連携して研修会を開催、小読本を作成するなど、歯と口の健康づくりが効果的に実施されるよう努め、80歳で20本以上の歯を保つ方が増えている。引き続き総合的に取り組んでいく。

成年後見制度と市民後見人について

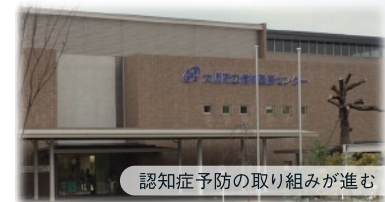
Q. 認知症などで判断能力が十分でない方の生活を守るために創設された後見制度は、まだ十分に普及していない。取り組み状況は？申し立ての増加を見込むと、専門職だけでなくボランティアによる市民後見も必要だ。「協働」の仕組みづくりのためにも育成すべきと考えるが？

A. 親族の理解不足など様々な要因で活用が進まず、利用促進に向けた周知に努めている。平成23年から市民後見人の養成活動支援に取り組みしており、財源確保に努めるとともに、府の情報やノウハウの提供などサポートを行い、多くの市町村が取り組めるよう働きかけていく。

認知症予防プログラムについて

Q. 枚方にある府立精神医療センターでは、保健所との連携で心と体の双方から認知症予防プログラムの策定が検討されていると聞き、画期的なプログラムを期待している。取り組み状況とめざす方向は？

A. 精神医療センターでは、地域の医療機関や行政機関等と連携し「運動機能」「認知機能」「栄養生活習慣」「対人交流活性化」の4領域に焦点を当てたプログラムの策定を検討し、予防効果を検証していく。



認知症予防の取り組みが進む

介護予防と総合事業について

Q. 認知症の急増に対し、地域ぐるみの多様なサポートが必要と考える。今後、要支援者のサービスが総合事業に移行することで、スムーズに移行できるかどうか不安も大きいが対応は？「協働」のパートナーとしてNPOやボランティアは欠かせない。その育成は？元気な高齢者が集う「街かどデイハウス」の積極的な活用は？

A. 総合事業は、市町村が中心となりNPOやボランティアも参画してサービスを充実させるもので、市町村の状況を把握してスムーズな移行に向けた検討や情報提供を行う。府は、地域で中心的な役割を担う生活支援コーディネーターの養成にあたる。街かどデイハウスの活用は有効であり、市町村とのワーキングの場で可能性について検討する。



街かどデイハウスで長寿表彰

このほか、日本語が話せない外国人が医療機関でスムーズに受診できるよう、医療通訳士の育成・派遣への取り組みについても質問しました。